



2009年7月期決算説明

2009年9月18日
株式会社ティー・ワイ・オー
(JASDAQ:4358)

- **2009年7月期決算のご報告**
- **セグメント別決算の概況(要因と対策)**
- **今後の事業戦略/2010年7月期業績予想**

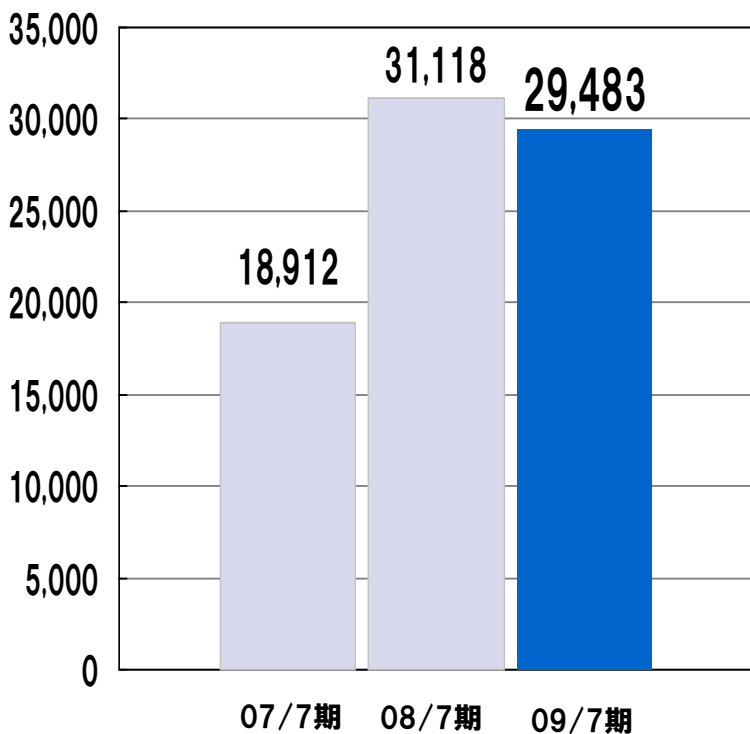
参考資料

2009年7月期決算のご報告

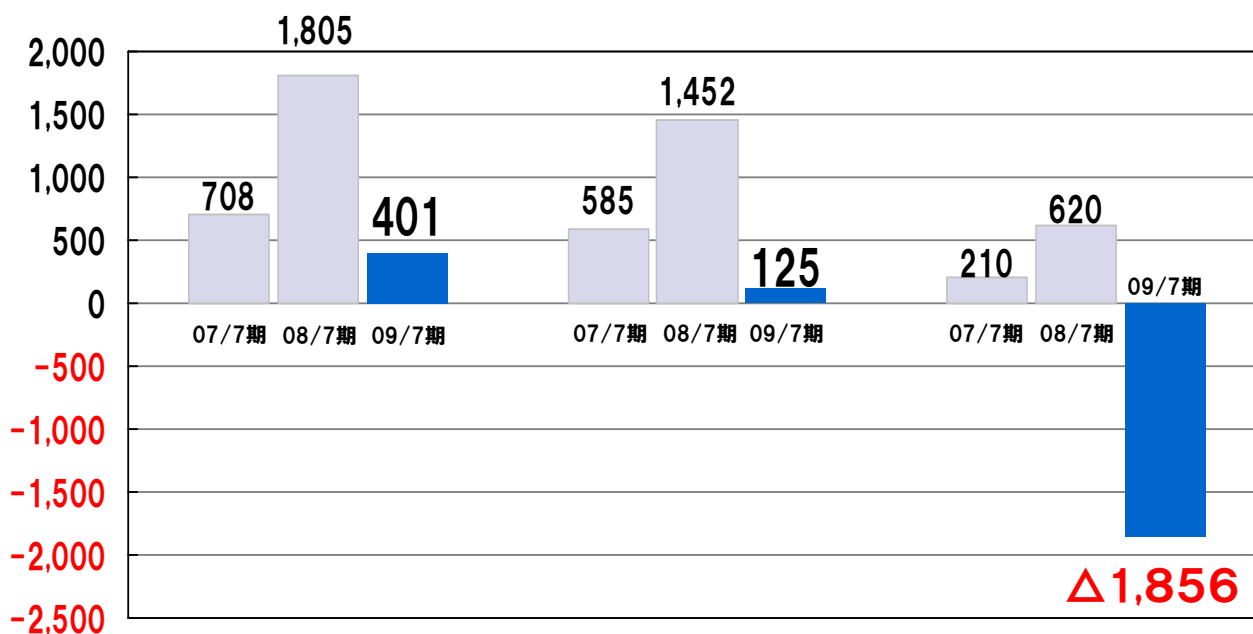
ゲーム部門撤退の影響等により、大幅減益・最終赤字

(単位:百万円)

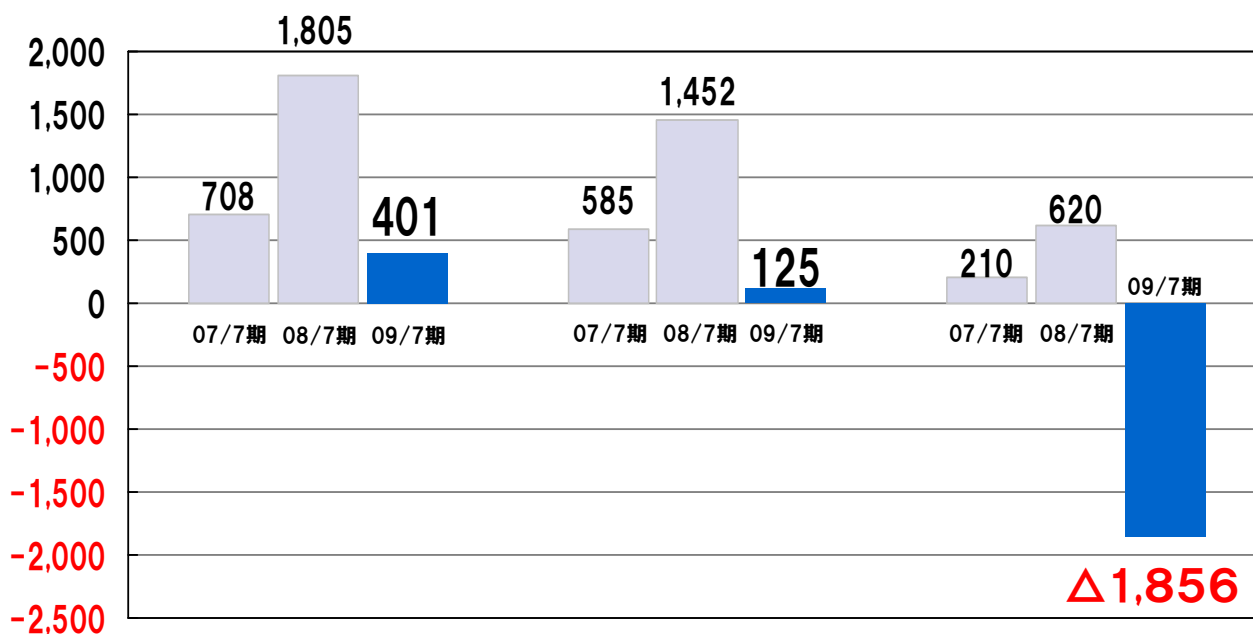
売上高



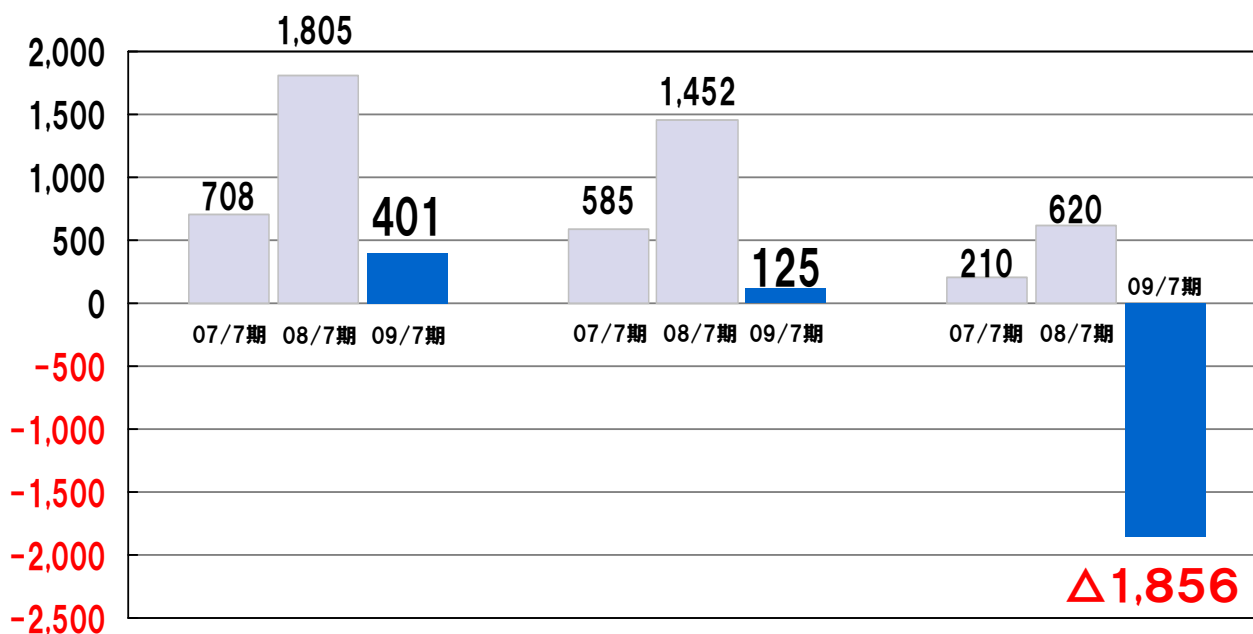
営業利益



経常利益



当期損益



※07/7期は決算期変更の為10ヶ月決算。

2009年7月期決算概要 連結損益計算書

(単位:百万円/%)

決算年月	2008年7月期		2009年7月期		増減額	増減率 (%)
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	31,118	100.0	29,483	100	-1,635	-5.3
売上総利益	7,693	24.7	6,542	22.2	-1,151	-15.0
販売管理費	5,887	18.9	6,140	20.8	253	4.3
営業利益	1,805	5.8	401	1.4	-1,404	-77.8
営業外収益	191	0.6	259	0.9	68	35.6
営業外費用	544	1.7	536	1.8	-8	-1.5
経常利益	1,452	4.7	125	0.4	-1,327	-91.4
特別利益	652	2.1	407	1.4	-245	-37.6
特別損失	192	0.6	1,783	6.0	1,591	828.6
当期損益	620	2.0	-1,856	-	-2,476	-

- イーヴァムグループ化
- ゲーム事業からの撤退の影響
- テレビアニメ番組の中止・延期の影響
- 世界同時不況による国際事業への影響

- イーヴァムのグループ参入
- 円谷プロ再建コスト
- ゲーム販売会社活動費

- ゲーム事業撤退に伴う特別損失計上
- 1st Avenueの新規プロジェクト撤退損

2009年7月期決算概要 連結貸借対照表①

(単位:百万円)

	2008年7月期	2009年7月期	増減
流動資産	12,335	8,416	△3,919
現金及び預金	1,913	1,808	△105
受取手形及び売掛金	5,835	3,529	△2,306
たな卸資産、商品及び製品	3,825	2,154	△1,671
その他	761	923	162
固定資産	12,631	14,548	1,917
有形固定資産	2,564	2,737	173
無形固定資産	6,477	6,221	△256
著作権 ※1	4,835	4,737	△98
のれん	1,333	1,301	△32
その他	309	182	△127
投資その他の資産	3,588	5,590	2,002
出資金	1,151	779	△372
長期貸付金	-	2,669	2,699
その他	2,437	2,141	△296
資産合計	24,966	22,965	△2,001

資産の部

グループ子会社の減少と営業キャッシュフロー改善により減少

ゲームソフト部門からの撤退に伴い減少。

① 新規投資の手控え
(新規出資金<既存償却額)
② 既存の出資金、及びM&Aに伴うのれんの償却による減少。

グループ外企業(ゲームソフト会社)に対する貸付金。

※ 円谷プロダクションの「ウルトラマン」等のキャラクター資産。

2009年7月期決算概要 連結貸借対照表②

(単位:百万円)

	2008年7月期	2009年7月期	増減	
負債の部	流動負債	14,521	14,522	1
	買掛金	3,668	3,031	△637
	短期借入金	7,067	8,817	1,750
	未払法人税等	801	286	△515
	前受金	1,155	961	△194
	その他	1,830	1,425	△405
	固定負債	6,993	7,043	50
	長期借入金	3,182	2,367	△815
	社債	522	237	△285
	負ののれん	742	531	△211
	繰延税金負債	1,967	1,928	△39
	関係会社整理損失引当金	-	1,368	1,368
	その他	578	610	32
	負債合計	21,515	21,565	50
	純資産の部	株主資本	2,349	303
資本金		1,077	1,077	0
資本剰余金		1,023	1,023	0
利益剰余金		1,226	△744	△1,970
自己株式		△978	△1,053	△75
評価・換算差額等合計		60	△125	△185
その他有価証券評価差額金		△9	△47	△38
為替換算調整勘定		69	△77	△146
少数株主持分		1,034	1,196	162
純資産合計		3,451	1,399	△2,052
負債純資産合計	24,966	22,965	△2,001	

- イーヴァム・インターナショナルのグループ化で資金需要が増加。
- 組織再編に伴う一時的な再建資金の需要
- 円谷プロの有利子負債返済(グループ参画時30億円 ⇒14億円)

ゲームソフト会社への長期貸付金26億のうち半額を予め引当金計上。

当期純損失に伴い利益剰余金の減少。

(単位:百万円)

	2008年7月期	2009年7月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	159	468	309
投資活動によるキャッシュ・フロー	782	△696	△1,478
財務活動によるキャッシュ・フロー	△668	242	910

◆ 営業活動によるキャッシュ・フロー

- 増加要因 ファクタリング・前受金の活用による売掛金回収サイトの改善。
(9割を1～2ヶ月で現金化)。

◆ 投資活動によるキャッシュ・フロー

- 減少要因 M&A、製作委員会への出資を控える事で、償却先行となっている。

◆ 財務活動によるキャッシュ・フロー

- 増加要因 組織再編に伴う一時的な再建資金により増加。

不採算子会社中心に抜本的な組織再編を実施
赤字子会社 2Q末:18社 ⇒ 期末:10社 へ減少

※製作委員会及び持分法適用会社除く。

<グループ子会社の期末経常損益状況>

黒字会社 22社

赤字会社 10社

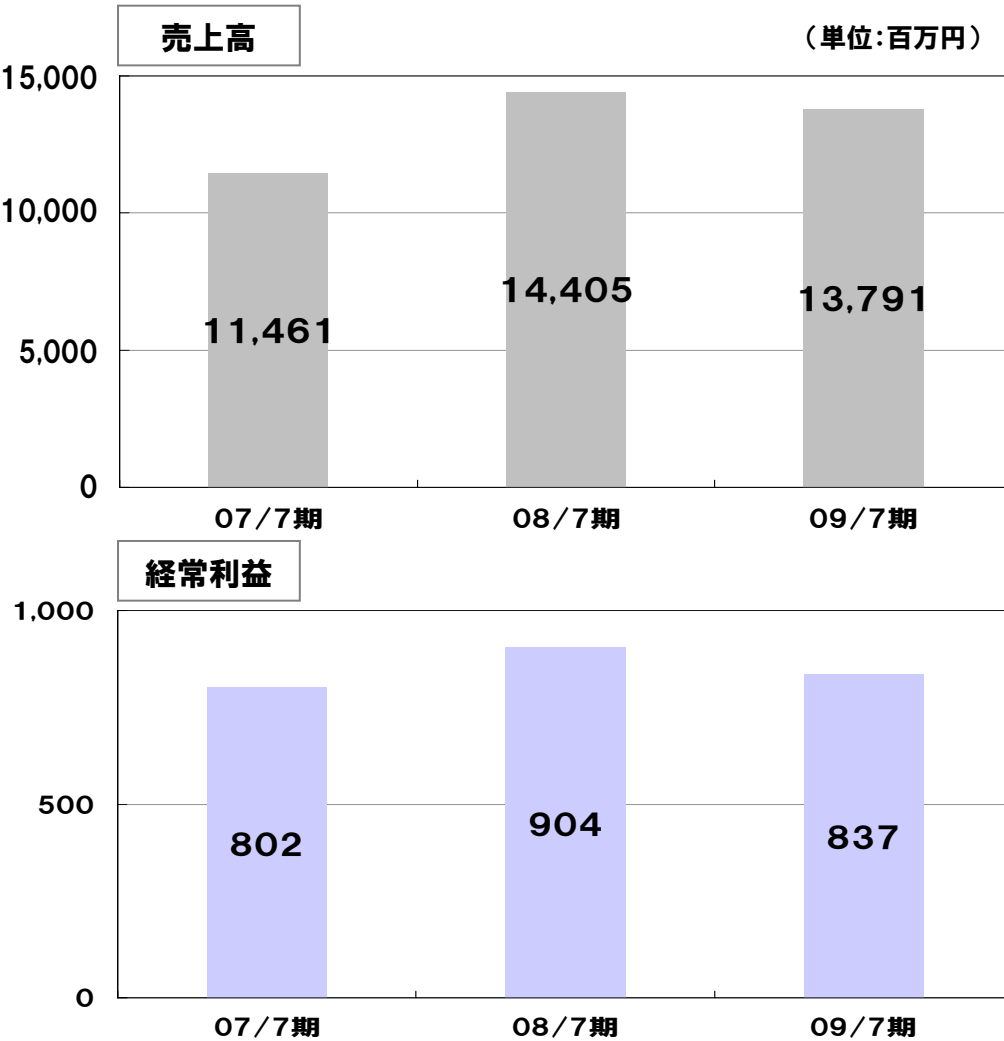
	黒字会社 22社	赤字会社 10社
TV-CM	TYOプロダクションズ、エムワン、モンスター・ウルトラ、サツソフィルムズ、Camp KAZ、リンフィルムズ	
マーケティング・コミュニケーション	ゼオ、イーヴァム・インターナショナル	1st Avenue
WEB	ティー・ワイオーインタラクティブデザイン、テオリアコミュニケーションズ、コム	コラボ
CG	デジタル・フロンティア、ルーデンス、さるちん	GEMBA
キャラクター	円谷プロダクション	ドワーフ
アニメ	リアル・ティ	TYOアニメーションズ
ゲーム		
音楽映像／ドキュメンタリー番組		博宣インターナショナル、祭
コンテンツ・ソリューション	TYOテクニカルランチ	
インターナショナル	Great Works AB、Great Works SL、Great Works America、グレートワークス Tokyo	上海シェパード
管理会社	TYO本体	TYO Administration, TYO International B.V.

撤退

通期連結実績：黒字(経常利益)を達成

セグメント別の概況(要因と対策)

売上高・利益の推移




09/7期の実績と要因分析

- 企業の広告宣伝費削減の影響で単価下落傾向。
⇒ 原価抑制で利益率の維持が求められる。
- 不況による業界淘汰で大手制作会社に案件集中。
⇒ **TYOの競争力が相対的に強化。**



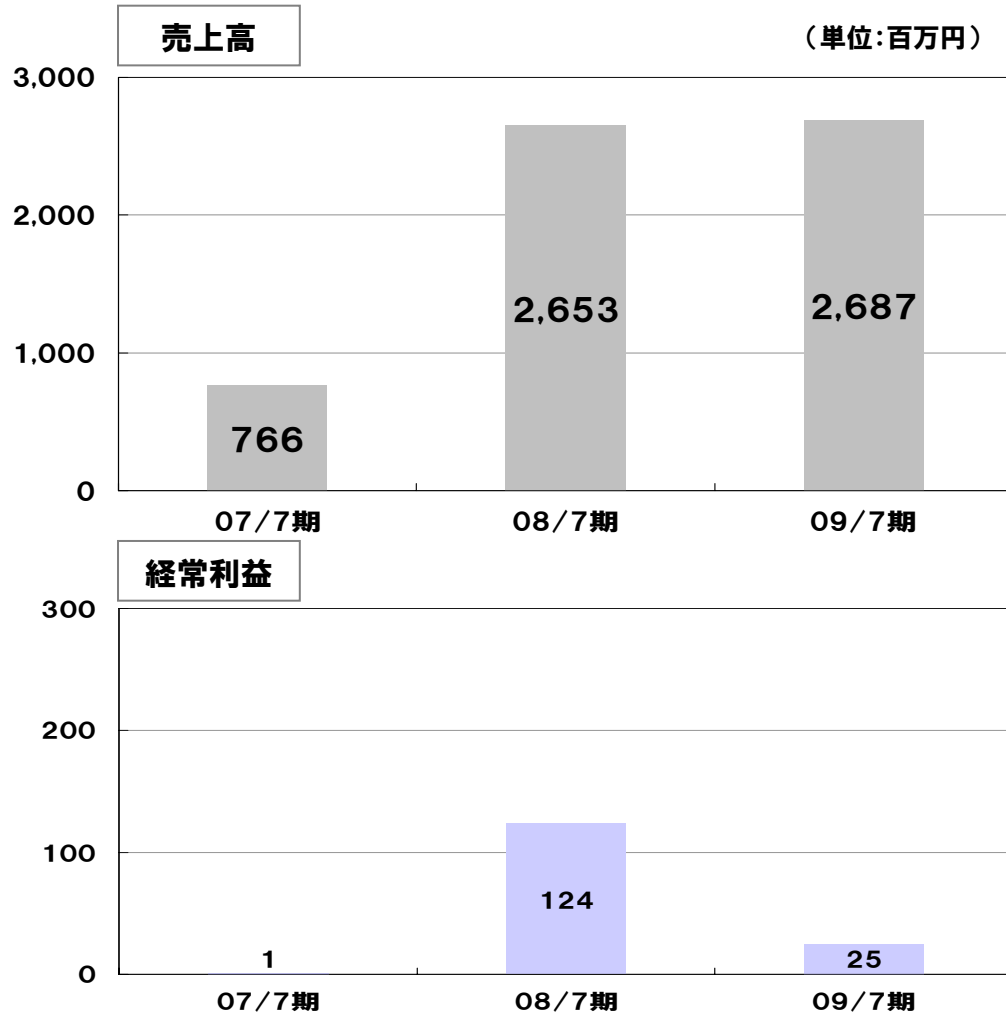
講じた対策

- **ポスト・プロダクション業務をTYOテクニカルランチへ集中**(超過分は同社経由で指定会社に発注)
⇒ ボリューム・ディスカウントを実現。 
- **外注コストの見直しで原価抑制**
⇒ **クリエイティブ/ディレクター等の発注見積表を設定。**

※ ポスト・プロダクション＝撮影後の作業の総称

※1. 連結相殺前の単純合算数値です。
※2. 07/7期は10ヶ月の短縮決算です。

売上高・利益の推移



09/7期の実績と要因分析

- スポンサーの直接発注が増加傾向にある。
- 1st Avenueの新規事業(WEBマガジン “OK! JAPAN”)が失敗。
⇒ 連結利益の減少要因に。

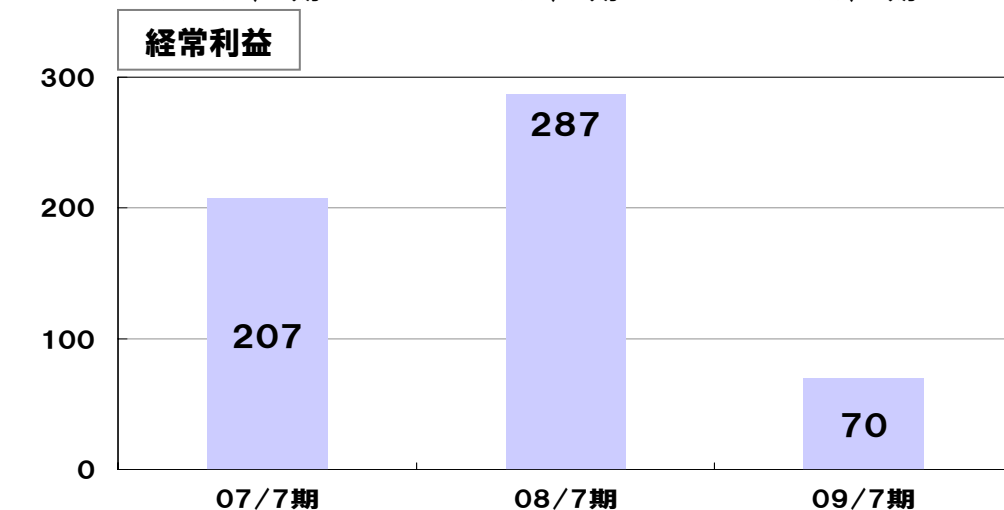
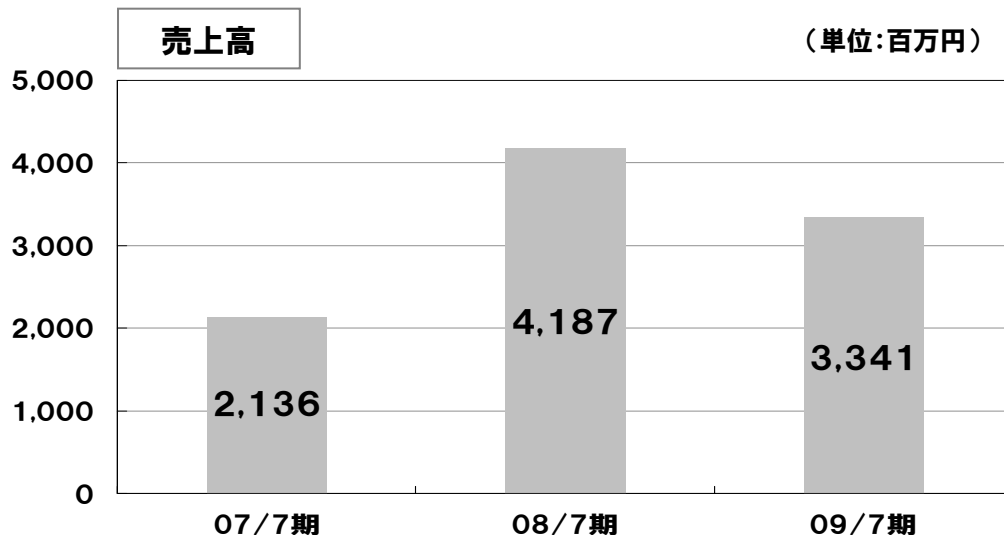


講じた対策

- 組織の補強。
⇒ イーヴアム・インターナショナルのグループ化。
⇒ 不採算子会社ウルトラをモンスターフィルムスに合併。新会社モンスター・ウルトラ発足。
- 1st Avenueの新規事業の早期撤退を決定。
⇒ 下期の本業復帰で、赤字幅を最小限に。

※1. 連結相殺前の単純合算数値です。
※2. 07/7期は10ヶ月の短縮決算です。

売上高・利益の推移



※1. 連結相殺前の単純合算数値です。
 ※2. 07/7期は10ヶ月の短縮決算です。

09/7期の実績と要因分析

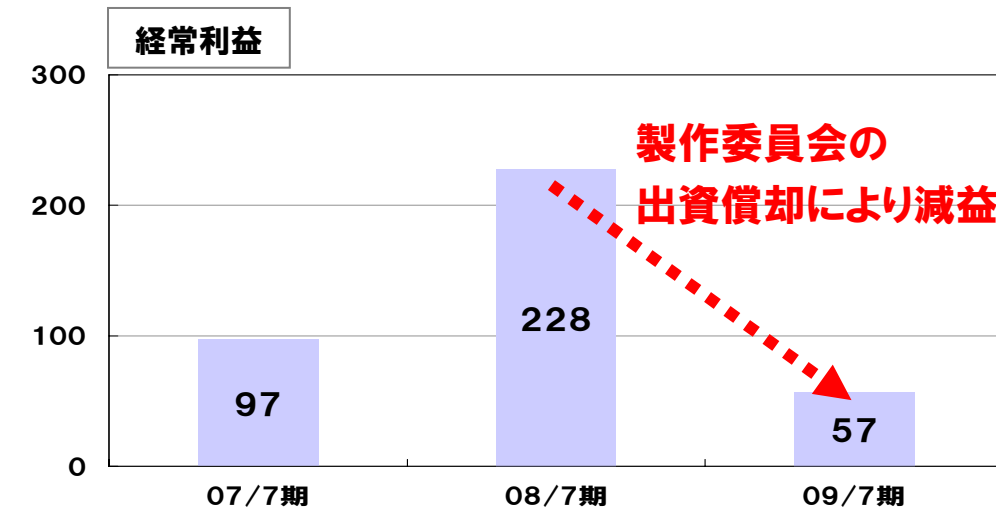
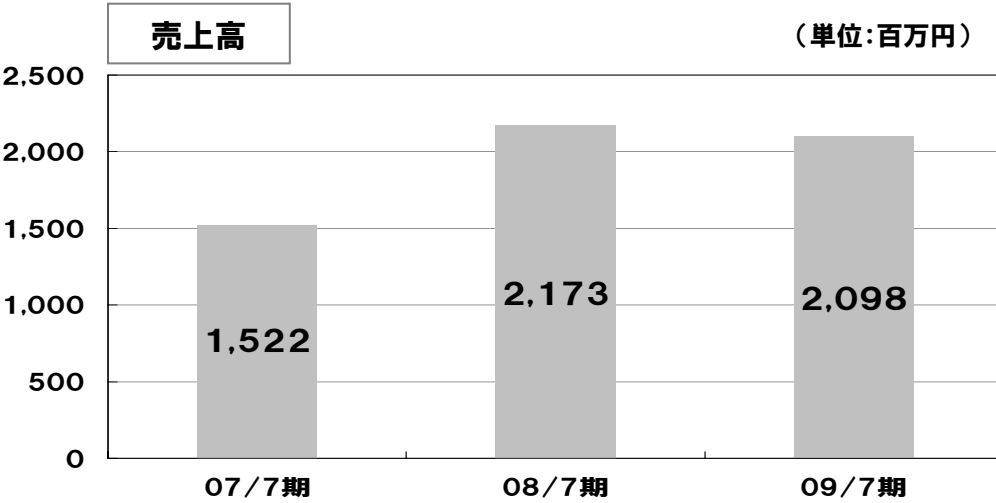
- 不況により、案件数及び発注額の減少。
- 特に欧米市場の不況の影響は深刻。
- 既存クライアントの失注があるも、新規クライアントの開拓にも成功。
 ⇒ 利益の減少額を最小限に留める。



講じた対策

- コスト低減施策を実施。
 ⇒ 事務所移転により地代家賃等の削減。
- 不採算子会社のMBOの実施。
- 営業の強化。
 ⇒ TYO営業企画部と連携し、新規クライアント開拓。
 ⇒ 他事業部門とのクロスメディア制作にて受注拡大を図る。

売上高・利益の推移



09/7期の実績と要因分析

- 映画、TV-CM、パチンコ等のCG案件は堅調に推移。
(国内No.1のモーションキャプチャーを有効活用)
- ゲーム案件は減少。
- 制作委員会の出資償却負担が重く、大幅減益。



講じた対策

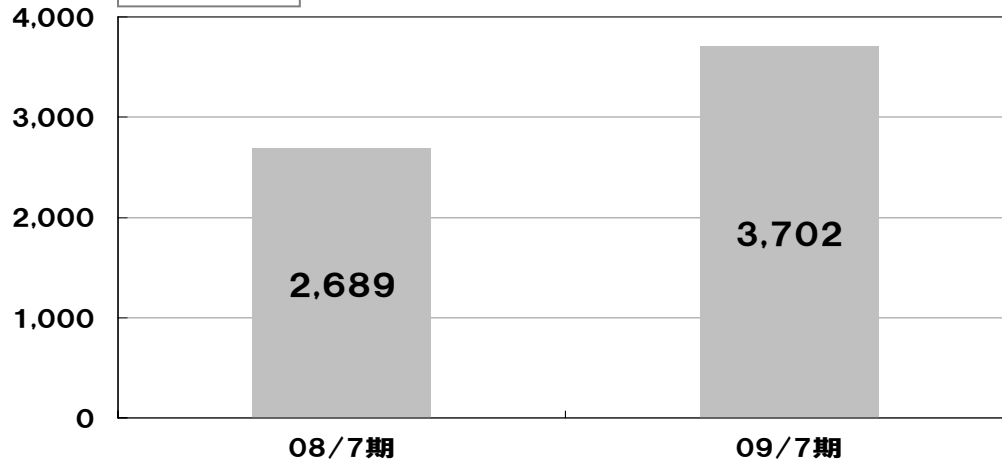
- 国内No.1ブランドを活かし、国内外の大型案件(高収益案件)受注を図り、引き続き競争力を高める。
- 制作委員会の出資を控え、利益確保を最優先に。

※1. 連結相殺前の単純合算数値です。
 ※2. 07/7期は10ヶ月の短縮決算です。

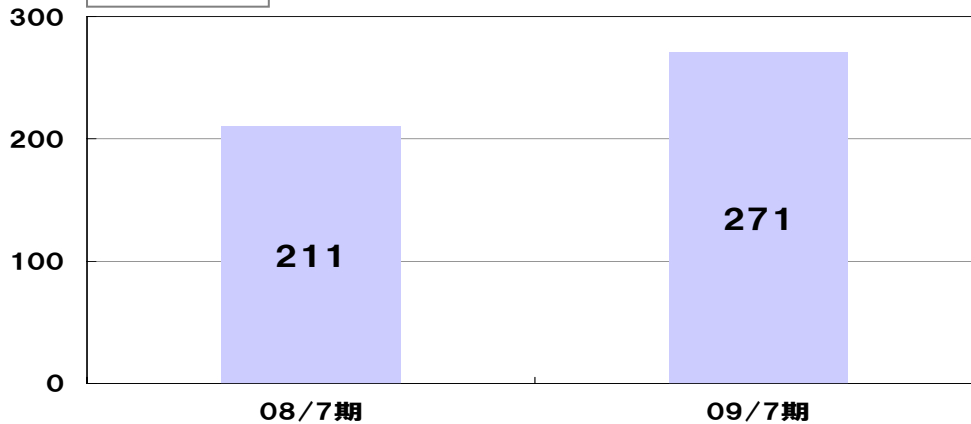
売上高・利益の推移

売上高

(単位:百万円)



経常利益



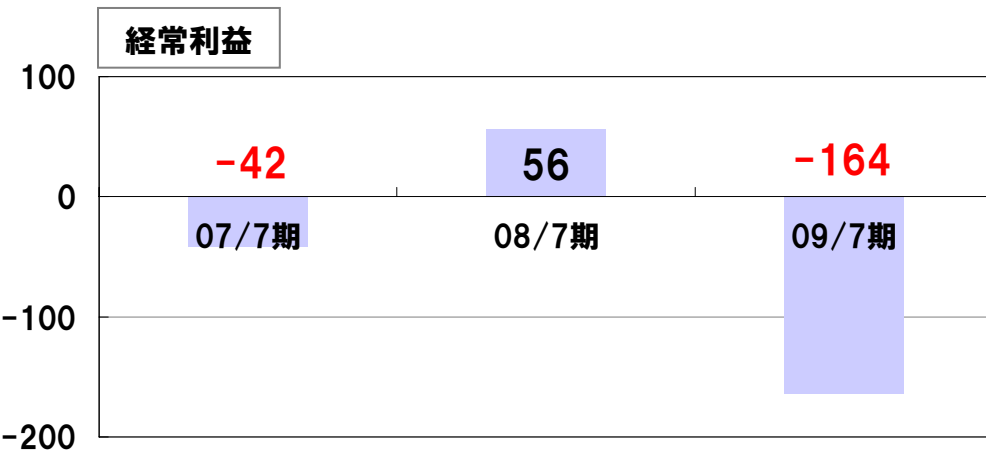
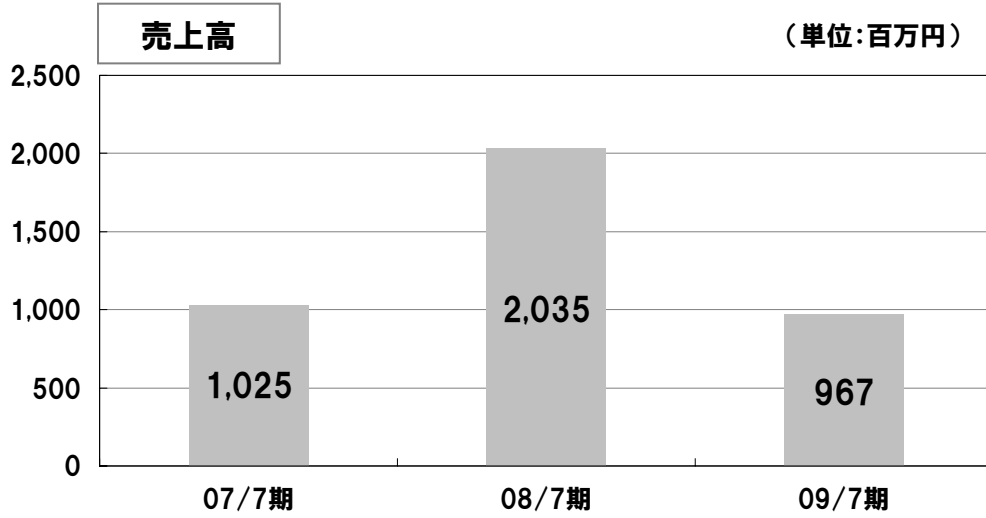
09/7期の実績と要因分析

- 円谷プロの再建も一巡し、順調に利益を創出できる企業に。
- TYOグループのキャラクターによる広告利用機会の増加(ウルトラマン、どーもくん、こまねこ等)。

講じた対策

- 円谷とバンダイのアライアンスを強化。
⇒ ライツビジネスの更なる強化。
- キャラクター部門の経営強化。
⇒ 円谷の社長をTYOの当部門管掌役員に推薦。
- 海外アライアンス戦略で円谷の海外展開推進
⇒ 上海円谷を閉鎖。上海の代理店SCLAと契約。
- ドワーフの営業強化。
⇒ TYO営業企画部との連携により新規クライアントを開拓し、収支黒字を目指す。

売上高・利益の推移



09/7期の実績と要因分析

- 不況でスポンサーの降板が続出し、複数プロジェクトが失注・延期。
⇒ 大幅な減収減益。
- 製作委員会出資の償却負担も利益の減少要因に。

講じた対策

- アニメ会社の2社合併実施。
(新会社 TYOアニメーションズ)
⇒ 地代家賃等、固定費共有化で削減。
⇒ 制作ラインの集約による効率化。
⇒ 営業の一本化。
- アニメーション部門の経営強化。
⇒ TYOアニメーションズの社長を新たにTYOの当部門管理役員に推薦。
- 製作委員会の出資を控え、利益確保を最優先に。



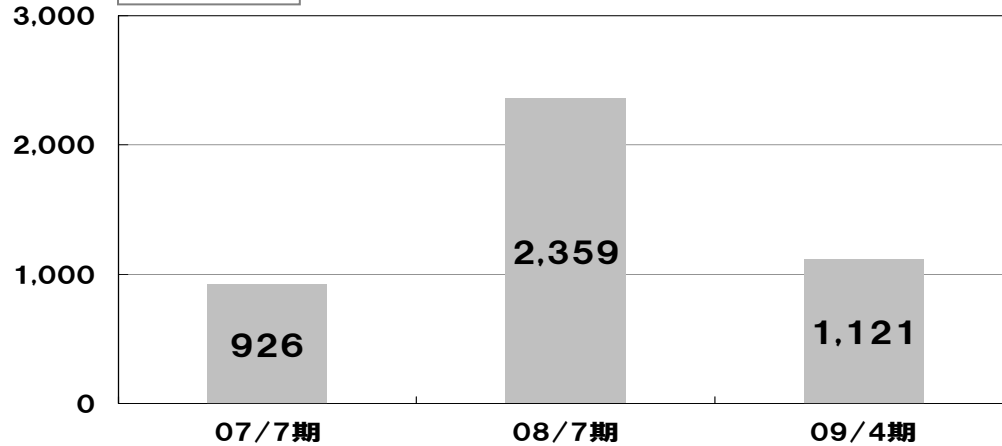
※1. 連結相殺前の単純合算数値です。
※2. 07/7期は10ヶ月の短縮決算です。

エンタテインメント事業：ゲームソフト部門

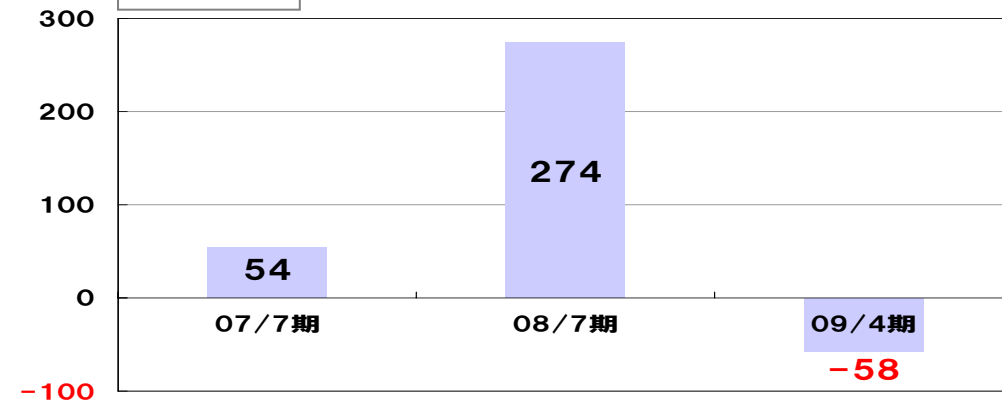
売上高・利益の推移

売上高

(単位：百万円)



経常利益



09/4期の実績と要因分析

- 販売領域に進出するも、市場予測の読み誤りにより在庫過多。
- 経営管理の甘さから納期ズレが発生。
- 困難な経営管理状況の中、運転資金の回収が遅れ、貸付金が過度に膨張。

⇒貸付金が限度額に到達。

講じた対策と結果

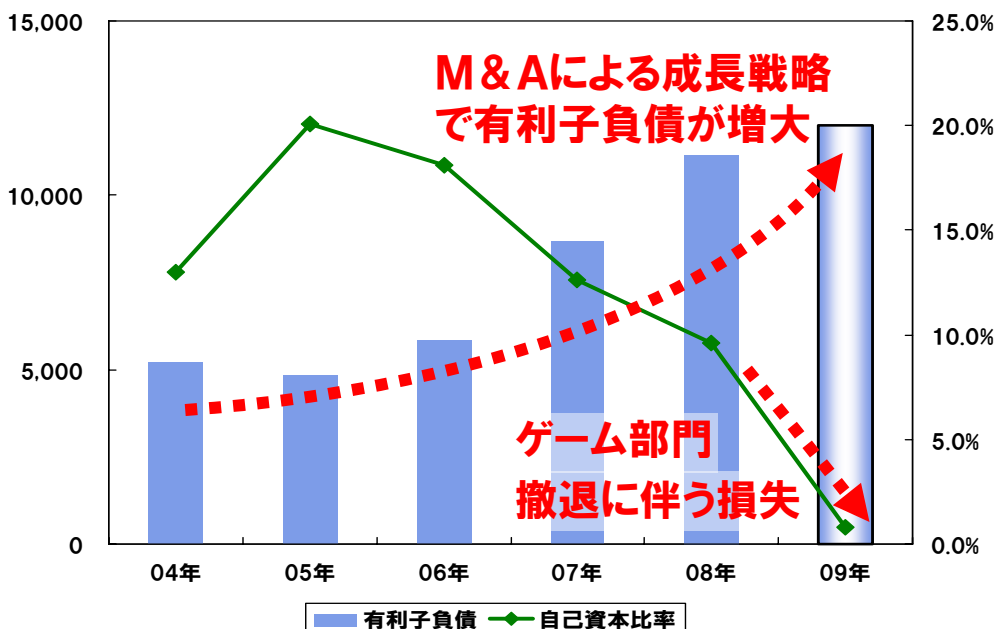
- ゲームソフト部門の完全撤退を実施。

⇒運転資金の追加貸付をゼロに。

※1. 連結相殺前の単純合算数値です。
 ※2. 07/7期は10ヶ月の短縮決算です。
 ※3. 09年は4月までの9ヶ月の実績です。

TYOの有利子負債と自己資本比率の推移

(単位:百万円)



これまでの経緯と問題点

- **M&A戦略における先行投資により急速な成長を遂げる一方、有利子負債が増大し、財務基盤が脆弱に。**
- **毎期、財務基盤強化を経営重要課題と認識しつつも、施策が不十分であった。**
- **ゲームソフト部門から撤退するも、当部門への貸付引当金計上に伴う損失の発生。**



2009年7月期の財務状況

有利子負債	120億円
自己資本比率	0.8%

**今後の事業戦略
2010年7月期業績予想**

今期(2010年7月期)は「**財務体質の改善**」を第一経営課題として事業計画を組み立てます。

- ✓ 営業キャッシュフローの増強
- ✓ 有利子負債の適正化
- ✓ 自己資本の増強

中期経営計画(P/L)

■P/L

(単位:百万円/%)

	実績		業績予想					
	09/7期		10/7期		11/7期		12/7期	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
売上高	29,483	100.0	29,000	100.0	31,500	100.0	33,000	100.0
営業利益	401	1.4	900	3.1	1,450	4.6	1,800	5.5
経常利益	125	0.4	650	2.2	1,150	3.7	1,450	4.4
当期純利益	△1,856	-	150	0.5	550	1.7	800	2.4

上記の通期業績予想につきましては、現段階における仮定を前提にしており、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。今後の市場動向、グループ各社の業績動向を踏まえた結果、修正が必要である場合には、速やかに開示いたします。

中期経営計画(B/S、C/F)

■B/S

(単位:百万円)

	実績	業績予想		
	09/7期	10/7期	11/7期	12/7期
資産	22,965	22,400	21,900	22,000
負債	21,565	20,700	19,600	18,800
純資産	1,399	1,700	2,300	3,200

■C/F

(単位:百万円)

営業CF	468	850	1,350	1,200
投資CF	-696	-250	-250	0
財務CF	242	-1,100	-1,100	-1,000

上記の通期業績予想につきましては、現段階における仮定を前提にしており、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。今後の市場動向、グループ各社の業績動向を踏まえた結果、修正が必要である場合には、速やかに開示いたします。



本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。

本資料は発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。

経済状況・市況環境にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が予測数値と異なる可能性があります。

当資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

当社は、株主や投資家の方々に、当社についての理解をより一層深めて頂くことを目的としてIR(Investor Relations)活動を行って参ります。また、取り扱う業績結果、財務内容、経営戦略等につきましては迅速、正確かつ公平に開示することを基本姿勢としております。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転用などを行われぬようお願いいたします。

お問合せ先

株式会社ティー・ワイ・オー 経営企画部

TEL 03-5434-1586

E-mail irwindow@tyo.co.jp

参考資料

広告映像領域

約3兆円

日本の広告市場
約6兆7000億円
(出所:電通 日本の広告費)

●TV-CM制作市場
約2,000億円

●ネット広告制作市場
約1,600億円

●プロモーションメディア(SP広告)市場
約2兆6,000億円

●WEBインテグレーション市場
約880億円
(出所:ミック経済研究所)

エンタテインメント領域

約2兆4,200億円

●アニメ市場
約2,400億円

●DVD・ビデオ市場
約3,800億円

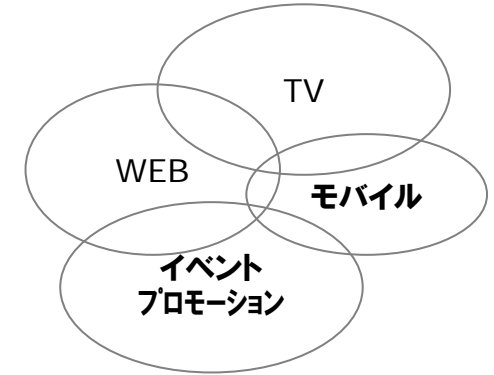
●映画市場(興行収入)
約2,000億円

●キャラクター商品市場
約1兆6,000億円

(出所:情報メディア白書)

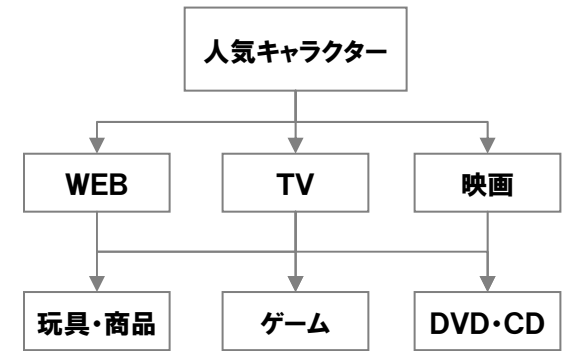
クロスメディア手法の定着

- 昨年秋の景気後退以降、より費用対効果の高い広告手法を求める企業ニーズ
 - インターネットにおける技術進化(WEB上での高度な表現可能に)
- ⇒ **クロスメディア展開をトータルで提案・実施できる体制へのニーズ**



知名度の高いキャラクターの重要性

- 少子化でキャラクター市場は縮小傾向、新たなキャラクターが出にくい環境
 - メディア多様化により、1つのキラーコンテンツが様々な収益源となる
- ⇒ **定番キャラクターへの「集中化」** (例)米ディズニーによる「スパイダーマン」買収

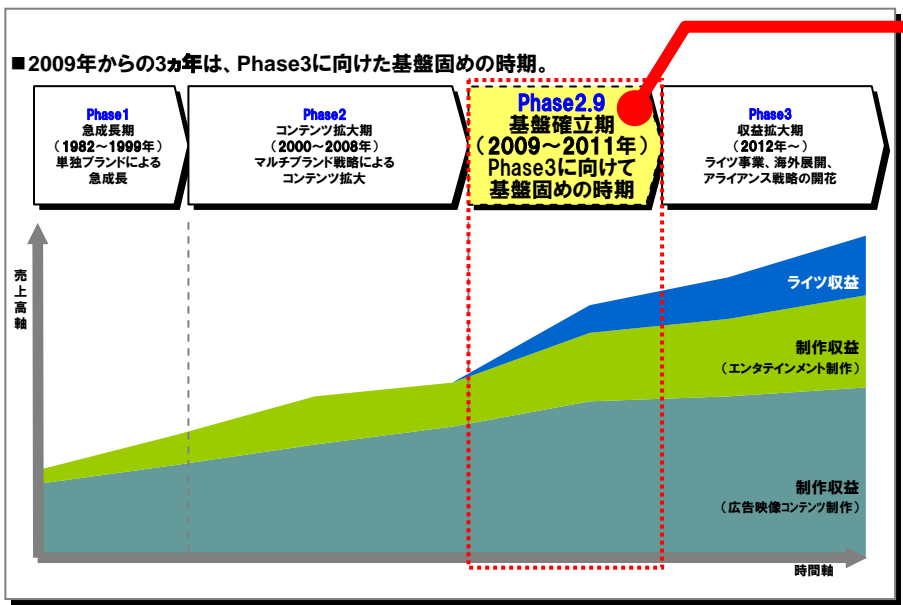


制作単価の下落傾向

- 企業広告予算の縮小に伴う、媒体単価、制作単価の減少
(しかし、費用対効果やクオリティ維持は求められる)

⇒ **如何に低コストでの制作体制が構築できるか、がプロダクション利益確保の鍵**

期初に掲げた中長期経営計画



2008年7月期決算説明会資料抜粋(08/9/19)

中長期経営計画のスタートを1年延期

2009年7月期は再び高い目標を掲げる為の準備期間

広告映像コンテンツ

エンタテインメント

聖域なき合理化と徹底的なコストダウン

グループ営業力の強化

メディアの急変に対応する新しいビジネスモデルの構築

- キャッシュ改善
- 財務体質強化